



# 輝け！北っ子

平成29年10月2日発行

10月号

発行責任者 紺野 宗作

## ともに学び合いのある学校へ…授業改革に取り組んでいます！

わたしは、どこの教室も次のような教室にしなければならないと考えています。そのためには、正解を急ぐのではなく、「わからない」が言える教室、間違いの出せる教室、そのわからなさや間違いに友達が寄り添える教室にしなければならないと考えています。そうすることで、どの子どもにも学ぼうという意欲が宿り、そこから、やり方だけを身につける機械的な学習ではない、本質的な学びが生まれ、それはすべての子どもに学ぶ喜びをもたらすのだと思います。子ども一人ひとりの「今」に寄り添う心温かい授業の実現を目指しています。

学校教育には、一人ひとりの学力を向上させるという名目で友達を頼らずドリル学習を繰り返し行い、自力で頑張るように仕向ける傾向がなきにしもあらずです。それは逆に子どもを学べなくする危険性をはらんでいます。本当に豊かな力をつけている人は、どんな職業、どんな分野でも、他者から学んでいます。わたしが「学び合う」子どもにしたいと考える所以はそこにあります。学びを豊かにするためには、一人ひとりの努力も必要ですが、仲間とともに学び合うことが不可欠なのです。

人間にはもともと他者とのつながりを求める思いがあります。子どもがそうなることはさほど難しいことではないように思えますが、現実にはそうになっていないことのほうが多いです。他者を求め他者と学び合いたいという子どもの欲求を解き放たねばなりません。仲間を求めてよいのだ、仲間に頼ってよいのだ、仲間から学ぶことで豊かになれるのだという安心感を生み出さなければなりません。その実現のために、今、北小学校では「ともに学び合う授業の創造」をテーマに掲げ授業改革に取り組み始めました。この取組を地道に継続する中で、仲間から学ぼう、仲間を支えよう、仲間とともに学びを深めようとする子どもを育てていきたいです。



**ペアでの学習を取り入れています！**

「今言ったところはどこからわかったの？」

「いまのは、このページの3行目から・・・」



**コの字型・4人グループ**

学び合いがしやすいように教室の学習形態を工夫して授業を行っています。



# あいさつができる子どもになってほしい！…家庭や地域でも

今、学校では児童会が中心となって「あいさつ運動」展開中です。



毎朝、校門に立って子ども達と挨拶を交わしながら出迎えています。

元気よく、明るくあいさつする子どもと出会うと、私自身が爽やかな気分になります。一方、私からあいさつしても何も言わないで通り過ぎてしまう子に出会うと、とても心配になります。あいさつができない人は、社会に出れば常識が無いと言われるほど重要です。一度身に付けたあいさつの習慣は、その子どもにとって一生の宝物となります。あいさつが自然とできる北っ子を育てていきたいです。

文科省の委託事業で、ある大学で「しつけに関する全国調査」を行いました。その中に「あいさつの仕方」の項目がありました。

それによると、「あいさつは家庭の役割だ」と回答した保護者は92%。また、「あいさつを家庭でしっかりしつけている」と回答した保護者は83%。あいさつに関して家庭での役割が大きいと自覚していることがうかがえます。

一方、教師に「あいさつを各家庭でしっかりしつけていると思うか？」という質問では、「しつけている」と回答したのが27%です。さらに、「学校はあいさつの指導をしているか？」という質問に対しては、教師は70%が「している」と回答しているものの、保護者は「している」と回答したのが16%でした。学校と保護者の間で実態認識のズレが生じています。

このように実態認識が違っては効果的な教育活動は望めません。私は、学校と保護者、そして地域が今の子ども達の課題は何かを共有し、三者一体となって教育活動ができるようにしていきたいと考えています。そして、学校でも家庭でも地域でもあいさつができるようにしていきたいです。